



歩く肺炎

南海トラフ注意報発令、史上最大級の台風の到来と身の縮むような思いをした8月が終わり、猛暑が続くなかにも朝晩の虫の音色に秋の気配を感じるようになりました。

最近マスコミの報道で「歩く肺炎」という言葉をよく耳にします。これはマイコプラズマ肺炎のことで、感染に気づかずに出歩いて多くの人に感染させてしまうことからこのように呼ばれています。コロナ禍で姿を消していたマイコプラズマですが8年ぶりの大流行となっています。全国の定点報告によると8月現在、昨年同月の14倍の感染者数になっているそうです。

マイコプラズマは細菌の一種で、感染してから2~3週間で症状が現れます。通常は37~38度の発熱、倦怠感、喉の痛みからはじまり、遅れて乾いた咳が出てきます。咳は頑固で長く続くことがあり、小学生以上の学童のお子さんに多いのもこの肺炎の特徴です。

マイコプラズマは感染しても無症状や軽症の人も多く、肺炎を引き起こすのは2~3割と言われています。抗原検査の感度が低いため診断が難しいこともありますが、マイコプラズマにはマクロライド系抗菌剤がよく効きます。小学生以上で発熱があり乾いた咳が続くようなときは、早めにかかりつけの病院を受診するようにしてください。

こんなとき保育所はお休みしましょう！

【嘔吐した】

- 24時間以内に複数回の嘔吐がある。
- 嘔吐とともに体温が高い
- 食欲がなく、水分をほしがらない。
- 機嫌が悪く、顔色が悪い。

『保育所における感染症対策ガイドライン』より



8月の感染症情報

新型コロナは7月末をピークに減少に転じ8月末での定点報告数は10.5でピーク時の半数になっています。

7月に流行したRSV感染症は減少しましたが、手足口病が再び増えてきました。5月に流行したときとウイルスの型が異なっているようで、2回目の感染のお子さんもいました。インフルエンザの発生はなく、溶連菌感染症も少なくなりました。



8月の利用状況

8月の利用延べ人数は76人、1日平均利用人数は4.5人でした。年齢別では、1歳児が31人で最も多く、次いで4歳児13人、3歳児11人の順でした。疾患別では、急性上気道炎が34人で最も多く、次いでRSV感染症15人、手足口病10人の順でした。疾患別の傾向は7月とほぼ同様でした。8月は保育士がコロナにかかったことから一時休室にしたため稼働日数が少なくなりご迷惑をおかけしました。巷では新型コロナがピークを超えたものの持続的な流行が続いています。まだまだ油断できません。残暑が厳しくなります。くれぐれもご自愛ください。